

徳島大学生のオンライン授業に関する意識と今後への提言

工藤駿作¹⁾、大崎人愛¹⁾、祖開 渚¹⁾、吉田 博²⁾、塩川奈々美²⁾、飯尾 健²⁾

1) 徳島大学総合科学部 2) 徳島大学高等教育研究センター

1. はじめに

2020年4月、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症による影響で、徳島大学は急きょ全面的にオンラインによる授業を展開することで新年度が幕を明けた。教員も学生も試行錯誤でオンライン授業を作り上げていく過程において、オンライン授業のメリットや課題が浮き彫りになった。全国的に大学のオンライン授業に関する調査において、学生は以前に比べ学習量が増加した、授業内容が理解しやすい、授業への参加を積極的に行うようになった、という効果が報告されている¹⁾。一方で、課題の多さに疲弊したり、生活リズムが乱れるなどの課題も明らかになってきた²⁾。

そこで、徳島大学教育について考え提案する学生・教職員専門委員会「徳島大学の教育について考えるWG(以下、WG)」では、徳島大学生のオンライン授業に関する意識を調査し、徳島大学の教育に対する提案を検討することを目的に、徳島大学生を対象としたアンケート調査を実施した。本発表では、このアンケートの結果をもとに、オンライン授業における徳島大学生の現状を整理するとともに、今後の徳島大学の教育の在り方について学生視点からの提案を行う。

2. オンライン授業に関するアンケート

徳島大学生を対象に2020年6月15日～7月13日を回答期間とし、回答者が特定されない形式のwebアンケートを実施した。WGの活動に賛同してくれた教員が担当する授業において、受講者にメールやLMSを通じてアンケートフォームを送付し、473名の回答を得た。設問は、①現在受講している授業形態、②オンライン授業の改善点、③COVID-19感染症終息後に理想だと思う授業形態と理由、④オンライン授業が実施されるようになったことによる学び方の変化と理由である。

3. アンケート結果・考察

(1) 現在受講している授業の形態

徳島大学では、6月1日から対面授業が実施可能となり、授業担当教員の判断で一部の授業が対面で実施されるようになった。図1に2020年度前期の後半に実施されていた授業形態を示す。対面授業が実施可能になった以降も、多くの授業がオンラインで実施されていることがわかる。

(2) オンライン授業の改善点

オンライン授業について学生が学ぶ上での改善点として156名(33%;特になしという回答を除く)から回答を得た。回答は授業設計・進め方・教材・資料に関する内容、オンライン環境に関する内容に分けることができた(表1)。課題を挙げた学生のうち、授業設計・進め方・教材・資料に関する課題が105件(67%)、オンライン環境の課題が44件(28%)である。記述内容から、教員はオンライン授業に対応することで精一杯であったことが窺える。したがって、今後は学生の立場に立った授業づくりを心掛ける必要がある。

(3) ポストコロナに求める授業形態

COVID-19感染症終息後に学生が理想だと思う授業形態について、回答とその理由を表2に示した。オンライン授業の実施を望む意見の方が多く、特に教員が解説するだけの授業はオンラインでの実施を希望する学生が多い。その理由として、「オンラインの方が学習効率・理解がよい」ということよりも「オンラインで十分だと感じる」と

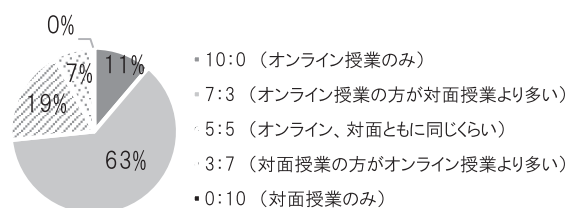


図1 現在受講している授業の形態

回答した学生の方が多いことが分かる。従来通りの対面授業を希望する学生の理由として、オンラインでは集中できないからという消極的な理由を挙げる学生もいるが、教員とのコミュニケーション、大学の教室で授業を受けることや友人との学び、学生生活に価値を見出している意見もある。

表1 オンライン授業の改善点 (n=156)

学生が学ば上で改善してほしいと考える点	記述数
課題の負担が大きい	24
資料を(事前に)提供してほしい	15
資料を示し課題を出すだけで解説がない	14
スピードが速い(間がない、次々進む、余談がない)	12
授業の動画(アーカイブ)を残してほしい	9
動画・資料の公開期間を長くしてほしい	8
質問ができない(しにくい)・教員に連絡がつきにくい	6
資料・教材・板書が分かりにくい	6
動画が長い	2
その他(授業設計関連)	9
音のズレ・ハウリングが生じる・画質が荒い・回線が悪い	22
LMS・オンラインツールを統一してほしい	9
オンライン授業と対面授業のどちらかに統一してほしい	6
アクティブラーニングができない	2
その他(オンライン環境関連)	5
その他	7

表2 COVID-19 終息後に理想だと思う授業形態

回答	回答数	理由	記述数
1	134 (29%)	対面授業の方が集中できる・オンラインは集中できない	31
		対面授業の方が教員とコミュニケーションがとりやすい・オンラインはとりにくい	15
		対面授業の方が理解できる・オンラインは理解できない	11
		友達と会える・友達と学習できる	11
		大学で授業を受けたい・学生生活がしたい	10
		移動が大変	10
		オンライン授業ではトラブルが発生する	6
		その他	11
		未記入	29
		オンラインの方が学習効率・理解がよい	36
2	204 (43%)	時間の有効活用・自分のペースで学習できる	11
		移動・通学時間を省略できる、家で受講できる	22
		感染対策できる	13
		オンラインで十分だと感じる	52
		その他	20
		未記入	50
		オンラインの方が学習効率・理解がよい	16
3	116 (25%)	時間の有効活用・自分のペースで学習できる	9
		移動・通学時間を省略できる、家で受講できる	18
		感染対策できる	13
		オンラインで十分だと感じる	22
		移動が大変	7
		その他	14
		未記入	17
4	14 (3%)	移動が大変	4
		その他・未記入	10

※回答1~4の内容は以下の通り。

- すべて対面授業で実施してほしいと思う(従来の形態に戻す)
- 板書やスライドなどを活用して先生が解説するだけの授業はオンラインでよいと思う
- ほとんどの授業はオンラインで実施してほしいと思う(実習、実験、フィールドワークなどを除いて)
- その他

この結果から示唆されることとして、授業の特徴に合わせた方法を選択すること、授業だけではなく、キャンパスでの学生による自発的な学びを促進する機会を確保すること、さらに、大学全体でのオンライン学習環境の充実が挙げられる。

(4) オンライン授業が実施されるようになったことによる、学生自身の学び方の変化

全面的なオンライン授業と従来の対面授業によるカリキュラムの両方を経験したことがある2年生以上(217名)を対象に、「オンライン授業が実施されるようになったことによる自身の学び方の変化」について尋ねた。その結果、119名(57%)の学生が変化したと回答し、このうちの78名(68%)がポジティブな変化があったと回答した。具体的な内容として、学習時間の増加、主体的な学習、時間の有効活用が挙げられた。一方、ネガティブな変化があったと回答した27名(16%)は、課題に追われていること、学習意欲の低下、生活リズムの乱れ、などを変化として挙げた。

この結果、オンライン授業では、学生自身の学習に対する主体性が、対面授業よりも求められるため、適応できる学生とできない学生に分かれることが推察できる。オンライン授業を実施する際には、学習への動機づけや双方向性の確保など、学生が学習に主体的に取り組むことができる仕組みづくりが重要であると言える。また大学全体としては、授業方法の偏りや学生の負担に偏りが発生しないように、カリキュラム全体で設計を検討することが重要である。さらに、学生の状況に応じて、対面での学習支援や履修指導を充実させることも必要である。しかし最終的には、授業は教員と学生が共同で作上げるものである。学生自身にも、授業形態にかかわらず積極的に学習する姿勢を持つことは不可欠と言えよう。

参考文献

- 広島大学高等教育研究開発センター「オンライン授業・教育に関する各種調査結果」、<https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/2020/09/online9-4/> (2020.11.4 閲覧)
- 全国大学生協同組合連合会「第3弾大学生向けアンケート7月実施版結果報告」、https://www.univcoop.or.jp/covid19/recruitment_thr/index.html (2020.11.4 閲覧)